

DynEd®

Teacher's Guide



スピーキングテスト

v2.0

May 2009

目次

はじめに	3
スピーキングテスト	4
スピーキングテストについて	5
生徒へのオリエンテーション	6
テスト問題の種類	6
スピーキングテストの記録	7
プレイスメントレベルについて	8
付録 A: スピーキングテストの仕方	11

はじめに

このガイドは、ダインエドのスピーキングテストをより有効にご利用頂くための説明書です。スピーキングテストはダインエドのプレースメントテストと併用してご利用頂けますが、プレースメントテストとは異なり、子供及び初級者向けのテストではありません。また、このテストで正確なスピーキング能力を判断することができない声質の人もいますのでご了承ください。

本スピーキングテストは音声認識機能を使用しています。テストを実施する際は、雑音のない静かな場所で、適切なマイクを使用してください。テストには簡単なオリエンテーションが含まれており、テスト形式に慣れるために、実際のテストを受ける前に少なくとも1回はプラクティステストを受けてください。プラクティステストを完了しない場合はスピーキングテストは受けられません。テストが完了できない理由として、雑音やマイクの不備、テストを受ける人の声質、英語力がこのテストを受けるまでに達していない、等が考えられます。

このテストは発音の正確度を判断するだけでなく、チャンク能力も判断します。スピーキング能力はチャンク能力に比例すると言われています。チャンク能力とは、言葉を自動的にグループ分けし、作動音声記憶で処理されるようにする能力です。テストが進行するにつれて問題も長く難しくなります。回答しなかったり認識されない問題数が多くなるとその時点でテストは終了となります。

ダインエドのプレースメントテスト、スピーキングテスト、レコードマネージャー。この3つを併用してご利用頂くことをお勧めします。レコードマネージャーを活用するとテスト結果を保存したり、テストを自動的にロック/ロック解除することができます。

ダインエドのスピーキングテストが教師の方々のお役に立てば幸いです。ご意見、ご感想等ありましたら、是非事務局までご一方ください。また、レコードマネージャー及びコースウェアのライセンス契約に関する詳細は販売元か「sales@dyned.com」までご連絡ください。

スピーキングテスト

ダイネードのスピーキングテストはプレースメントテストと同様、学習開始時のレベル（プレースメントレベル）を判定し、どのコースから学習を開始するのが最適かを判断する為のテストです。生徒には最初にプレースメントテストを受けるよう指示してください。プレースメントレベルが1.0以上の場合、スピーキングテストを受けることができます。

スピーキングテストは生徒のレベルを1.0から2.7+に分けます。プレースメントテスト（**PT**）とスピーキングテスト（**ST**）の両方を受け、スピーキングレベルがプレースメントレベルより高い場合は、プレースメントレベルを上げます。但し、修正できるレベルを最高0.5とします。例えば、プレースメントレベルが1.2でスピーキングレベルが2.5の場合、プレースメントレベルは1.7となります。プレースメントレベルが2.5でスピーキングレベルが2.7の場合、プレースメントレベルは2.7となります。スピーキングレベルがプレースメントレベルより低い場合は、**PT**によって決定されたプレースメントレベルはそのままになります。すなわち、**ST**は**PT**によって決定されたレベルをより確かなものとしますが、**ST**の結果でプレースメントレベルが下がることはありません。プレースメントレベルが1.0より低い場合は**ST**を受けないようにしてください。もし受けたとしてもプレースメントレベルを調整することはありません（一番低いスピーキングレベルは1.0です）。

以下の表に従って生徒が学習開始時にどのコースウェアを学習するかを判断します。

<i>DynEd Placement Level</i>	<i>Appropriate Courses</i>
0.0~0.2 Beginner ~	New Dynamic English Module 1; First English
0.5~0.7	New Dynamic English Mod 2; FE Units 5~8; English For Success Units 1~4; The Lost Secret
1.0~1.2 Basic	NDE Mod 3; The Lost Secret; EFS Units 5~10
1.5	NDE Mod 4; The Lost Secret; EFS Units 5~10
1.7~2.2 Intermediate	NDE Modules 5&6, Functioning in Business, Dynamic Business English 1,2,3,4; Hospitality English
2.5	NDE Mod 7; FIB; DBE 3,4,5,6; Test Mountain
3.0 Advanced	NDE Mod 8; Test Mountain; Advanced Listening
3.5~5.0 (above DynEd's scope)	Advanced Listening; Test Mountain

学習中は1つ前のレベルの復習をし、そのレベルのマスタリーテストを受けてください。能力に適したレベルで学習をしている場合、マスタリーテストには合格するはずですが、学習しているユニットの学習進捗が50%以上に達するまでは、上のレベルをロックして生徒がアクセスできないようにすることをお勧めします。学習進捗に関する詳細はレコードマネージャーガイドか、各コースの教師用ガイド（レコードマネージャーガイドからアクセス可能）をご参照ください。

スピーキングテストについて

ダインエドのスピーキングテストで生徒のスピーキングレベルを判断します。このテストとブレースメントテストを併用することで、どのコースから学習を開始するのが最適かが分かります。他のテストと同様にテストを受けるに当たっては、テストテイキングスキルと集中力が必要になるので、持っている能力を十分に発揮できない生徒もいます。

スピーキングテストはスピーキング能力を把握するもので、リーディング能力は必要としません。生徒は文を聞きその文を繰り返して言います。文を言わなかったり認識されない場合、再度挑戦できるように同じ文をもう一度聞くことができますが、二度目もミスをすると次の文に進みます。

認識されない文の数が多くなるとテストはその時点で終了し、ある一定の数の文が認識されるとテストは最後まで進みます。テストは全部で20問です。

スピーキングテストはコンピュータ適応型テストで、テストにかかる時間は様々です。レベルの低い生徒がこのテストを受けた場合、進み方は遅くテストのどの段階であっても間違いの数が多くなった時点でテストは終了となります。また、テストを続けていてもある一定のスコアに達しない場合は、その時点でテストは終了となります。5問か10問でテストが終了となることがありますが、その場合はテストにかかる時間は2～3分です。テストでスピーキング能力が的確に判断されたかを確認する為に生徒の回答をバックアップとして録音し、レコードマネージャーから再生できます。但し、この機能はダインエドのテクニカルサポートを通して別途セットアップが必要です。

それぞれの問題の番号は順番を示しているだけで、問題そのものの番号ではなく、同じ問題でも生徒によって番号は異なります。問題はデータの中から何題かがランダムに出されるので、生徒によって異なった問題が出たり、又テストを二回受けた場合、最初の時とは違う問題が出ます。しかし、問題数そのものは決して多くないので、何回かテストを受けると問題を覚えてしまい正確な結果が得られません。従って、このテストは、あくまでも最初のレベルを見極める為のみに使用し、能力達成度（特に60時間以下の短期コースの能力達成度）を評価する為のテストとして使用することはお勧めしません。もしテストを二回受けなければならない状況が生じたとしても、テスト項目が変わるので、プラスマイナス **0.25** 以内の誤差で正確な能力を判断できます。しかし、学習開始時の能力を判断する目的としてテストを三回受けることはお勧めしません。

2ヶ月もしくはそれ以上の学習期間で、80時間以上学習する集中コースでは、期間終了時にもう一度このテストを受けて学習開始時の得点と比較し進歩の状況を把握することは可能です。

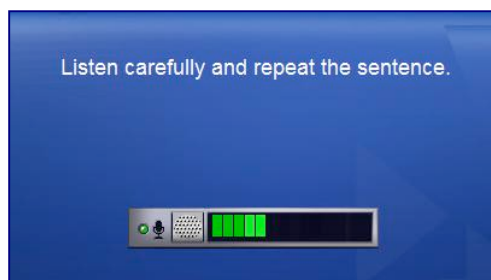
テストは終了すると自動的にロックされ、教師がレコードマネージャーを利用してテストをロック解除し生徒がプラクティステストをもう一度受けられない限り、テストにアクセスすることはできません。

生徒へのオリエンテーション

スピーキングテストを実施する際、できたら母国語でテストの受け方を説明してください。マイクとマウス操作の仕方をあらかじめ知っておくことは大切です。また、マイクを置く位置も重要です。マイクは口の近くに置きますが、近過ぎたり口の真ん前に置いたりすると正確な結果が出ません。プラクティステストは必ず受け、完了させるよう指示してください。プラクティステストでテストの受け方を確認し、音声やマイクに支障がないかをチェックします。プラクティステストを完了しない場合、教師がスピーキングテストをロック解除してもテストを受けることはできません。一旦スピーキングテストを受け始めたら途中でやめないように指示してください。又、回答しない場合間違いとみなされますので注意してください。

テスト問題の種類

テスト問題は1種類です。文を聴き（英文テキストは表示されません）同じ文を声に出して言います。認識されなかった場合は、もう一度文を聴いて答えることができます。二度目に認識されない場合は、次の文に進みます。



テストの受け方

- 文を聴きます。英文テキストは表示されません。
- 緑色のスピーチメーターが画面に表示されたら同じ文を声に出して言います。
- 答えるチャンスは二度あります。一度目に認識されなかった場合、もう一度答えることができます。二度目に認識されなかった場合は次の文に進みます。
- テストが自動的に終了するまで途中で止めないでください。問題の出題数は認識率によって変化し、8問から20問までです。

認識率を上げる秘訣

- 緑色のスピーチメーターが画面に表示されてから発声する
- 発声前や発声後に話したり雑音を入れない
- 声が大き過ぎても小さ過ぎても認識されにくくなるので、普通の声の大きさと普通の速さで明瞭に言う
- 息の音等が入らないようマイクに口を近づけ過ぎないようにする
- 文の最後の声量が落ちないようにする

Speaking Test

スピーキングテストの記録

スピーキングテストのデータは自動的に保存され、以下の二通りの方法で確認することができます。

- テスト終了後、再度スピーキングテストにログインし、プルダウンメニューのオプションから学習記録を開く
- レコードマネージャーを開き、スピーキングテストの学習記録を表示させる

両方とも、テストのデータは以下のように表示されます。

Lesson Name		Time	Complete	Score	Correct	Level	Notes
[-] Speaking Test		00:10					
[-] Practice Test		00:02					2C5
30-Jul-2008 16:22		00:02		33	7/8		
[-] Speaking Test		00:08					2C6
30-Jul-2008 16:24**		00:08		72	18/31	2.5	

記録の詳細として、テストが実施された日時、ロック / ロック解除の状況、テストに要した時間、得点、正解数と回答数、スピーキングレベルが表示されます。

上記の表は、スピーキングレベルは2.5で得点は72点、回答数は31でそのうち18問が認識されたことを表しています。スピーキングレベルがプレースメントレベルより高い場合は、プレースメントレベルを上げます。スピーキングレベルがプレースメントレベルより低い場合はプレースメントレベルはそのままにします。プレースメントレベルが0.7以下の場合、スピーキングテストは受けないようにしてください。受けたとしてもその結果でプレースメントレベルが調整されることはありません。

下の表はテストスコアとスピーキングレベルの対照表です。この表は変更になる場合があります。

Test Score	Fluency Level
0 – 28	Beginner or mistest
29 – 36	1.0
37 – 44	1.2
45 – 55	1.5
56 – 59	1.7
60 – 67	2.0
68 – 72	2.2
73 – 84	2.5
85 – 100	2.7 or higher

プレースメントレベルについて

ダイネードプレースメントテストは、**FSI (Foreign Service Interview)** のオーラル インタビュースケールと同じようにレベル 0 からレベル 5 迄の 5 段階に分けられ、学習開始時にダイネードのどのコースを学習するかを判断する為のものです。このテストは総合的な英語力をテストするものではありませんが、ダイネードのスピーキングテストを併用した場合、かなりの確に語学力を判断します。総合的な英語力を判断するにはオーラルスピーキングを含め量的にもこのテストより多いテストを必要とします。

それぞれのレベルは次のような能力を表わします。

レベル 0.0

基礎及び基礎の上。このレベルは時間や数等のごく初歩的なことも英語で表現することができません。基礎の上の場合、英語の語句や表現に関する基礎知識はいくらかありますが、実際に使うことはできません。最適なコースウェアは **New Dynamic English** のモジュール 1 及び **First English** です。

レベル 0.5

時間や数、スペリング等、幾つかの語句を理解し話すことができ、年齢、家族、仕事等に関する質問 (**What do you do? Where do you work?**) に答えることができます。代名詞や **WH** を使った 疑問文の作り方等の基本的な文法をすでに理解しています。最適なコースウェアは **New Dynamic English** のモジュール 2、**English For Success** のユニット 1～4、**First English** のユニット 5～8 です。

レベル 1.0

初級。家族や仕事、一日のスケジュールや一週間のスケジュール、嗜好、天気等に関する簡単な質問には短い文章で答えることができますが、生い立ちや将来の予定等に関する質問に関しては答えることができません。文章は短く断片的で、基本的な文型のみに限られています。最適なコースウェアは **New Dynamic English** のモジュール 3 及び **The Lost Secret** です。中 高生には **English for Success** のユニット 1～4 をお勧めします。

レベル 1.5

過去（今朝、昨日等の近い過去）に関する質問や、将来（今夜、明日等の近い将来）の予定等に関する簡単な質問に答えることができますが、話し方は遅く文法的にも間違いがあったり、使える文章は基本文型に限られます。物事を詳細にわたって具体的に説明したり理解することはできませんが、電話での基本的な応対（挨拶やメッセージを残す等）や買い物はできます。語彙に関しては、日時の表現、銀行や郵便局で必要な表現等、日常最低限必要なものに限られます。最適なコースウェアは **New Dynamic English** のモジュール 4 及び **The Lost Secret** です。中 高生には **English for Success** のユニット 5～10 をお勧めします。

レベル 2.0

中級の下。出来事が起きた順番、生い立ち、年月日、出来事が起きた時刻や場所、位置関係や原因と結果等に関して比較的簡単な表現でゆっくり、そしてはっきり質問した場合に答えることができ、又これらの事柄に関して質問することができます。断片的な語句ではなく完全な文章を使えますが、度々文法的な間違いをし、それが原因で理解できなくなることがあります。話し方は遅くて考えこんでしまったり、又速い時には文法的な間違いをよくします。基本的なビジネス（予約をする等）は誰かの助けを借りるとできますが、抽象的な情報を正確に伝えることはできません。最適なコースウェアは **New Dynamic English** のモジュール 5 と 6、**Functioning in Business**、**Dynamic Business English** の 1 4 です。

レベル 2.5

中級。日常的なことは比較的簡単にでき、しかも流暢に話すことができます。ゆっくり、そしてはっきり質問した場合、大抵のことに答えることができます。道案内ができ、車の売買や銀行口座の開設等も含め日常起こり得ることは助けなしに充分こなすことができます。仮定等の抽象的な考えも伝えることができますが、文法の間違いはかなりあります。ニュースや出来事等に関して苦もなく討論するにはまだ語彙不足です。最適なコースウェアは **New Dynamic English** モジュール 7、**Functioning in Business**、**Dynamic Business English** 3 6 です。

レベル 2.7

中級の上 上級。文法的な間違いで支障をきたすことが時々あるものの、専門分野に関する複雑な情報を理解し表現することができます。時間をかけて準備をすれば、明瞭なプレゼンテーションをしたり概要を説明することができます、又それらに関する質問に答えることができます。社会生活においては、問題を解決しなければならない場合等も含め大抵の状況に対処することができます、明確な指示や説明も比較的スムーズにできます。語彙や流暢さに問題はあるものの、ニュースや出来事等に関して話すことができます。ビジネスミーティング等、ビジネスに関わることは殆どの場合助けを借りずに対処できます。**TOEFL** 等の英語能力検定試験を受ける準備コースを学習できるレベルに達しており、語彙を増やすために新聞や雑誌を読むことをお勧めします。最適なコースウェアは **New Dynamic English** モジュール 8、**Test Mountain**、**Advanced Listening** です。

レベル 3.0

上級。複雑な内容の情報や抽象的な考えを伝えることができますが、時々文法的な間違いをして理解できなくなることがあります。時間をかけて準備をすれば、明瞭で分かりやすいプレゼンテーションをしたり概要を説明することができます、又それらに関する質問に答えることができます。動名詞や関係節などの比較的難しい語句を用い、完全な文章でコミュニケーションできます。社会生活においては、問題を解決しなければならない場合等も含め大抵の状況に対処することができます、明確な指示や説明もできます。比較的流暢に議論をすることができ、ニュースや出来事、グローバルな話題に関して考えを述べ、教養のある人とこれらの話題に関して話しをすることができます。ビジネスや専門分野に関わる大抵のことは対処でき、新聞や雑誌等を読んで概要を伝えることができます。**TOEFL** 等の英語能力検定試験を受けるレベルに達しており英語での授業を受ける能力があります。最適なコースウェアは **New Dynamic English** モジュール 8、**Test Mountain**、**Advanced Listening** です。

Speaking Test

レベル 3.5

上級。このレベルは時々支障はあるものの、比較的自信を持って大抵のビジネスやマネージメントをこなすことができます。長いプレゼンテーションができ、会話のメインポイントを要約できます。新聞やニュースを理解する語彙力が十分にあり、ネイティブと広範囲な分野にわたって話すことができます。ディベートや議論を互角にする為に必要な表現を使えますが、イデオロムが使われる映画や歌等を完全に理解するにはまだ困難が伴います。**TOEFL**等の英語能力検定試験を受けるのに十分なレベルで、英語での授業を受けることもできます。語学クラスをとる必要はたぶんありませんが、このレベルを維持する為の学習は必要です。このレベルには **Advanced Listening** をお勧めします。

レベル 4.0

ネイティブに近いレベル。アメリカ、イギリス、又はオーストラリアの大学、大学院を卒業のレベルで、慣用句以外の言語はほとんど駆使できます。但し、完璧なレベルでない為にわずかの支障はあるものの、高度な学習ができプレッシャーの中での状況を乗り越えることができます。アクセントの違いはありますが際立って不利ということもなく、教養のあるネイティブスピーカーと対等に議論ができます。語学に関する学習は特に必要ありませんが、このレベルを維持することを心がけることは大切です。このレベルには **Advanced Listening** をお勧めします。

レベル 5.0

このレベルは教養のあるネイティブスピーカーと同じようにあらゆる状況に対処できます。

付録 A: スピーキングテストの仕方

ステップ 1: 最初にダインエドのプレースメントテストを受けるよう指示してください。

ステップ 2: プレースメントテストでレベルが 1.0 以上の場合のみ、スピーキングテストを受けることができます。テストの前にオリエンテーションとしてスピーキングテストの受け方を説明します。実際にプラクティステストを使ってデモンストレーションをしてください。

ステップ 3: スピーキングテストを受けられる生徒（プレースメントレベルが 1.0 以上）のスピーキングテストとプラクティステストがロック解除されているか確認してください。

ステップ 4: 生徒にプラクティステストを受けるよう指示してください。プラクティステストで、ある一定のスコア（＊）を取らないとスピーキングテストを受けることはできません。プラクティステストに何回か挑戦してください。声質、発音、マイクやコンピュータの不備、レベルが低過ぎるなどの理由でプラクティステストのスコアが悪いことがあります。この場合はスピーキングテストは受けないようにしてください。

ステップ 5: スピーキングテストを受ける資格のある生徒にテストを実施してください。一旦テストを始めたらず途中でストップしないように指示してください。テスト所要時間は 10 分以内です。

ステップ 6: スピーキングテストが完了したらスピーキングレベルとプレースメントレベルを比較してください。スピーキングレベルがプレースメントレベルより高い場合はプレースメントレベルを変更し、次回にログインした時に学習経路が調整されます。

ステップ 7: テスト終了後そのテストはロックされます。もし何らかの理由でもう一度テストを受けなければならない場合は、レコードマネージャーを使ってロック解除してください。

以下はテストスコアとスピーキングレベルの対照表です。この表は変更される場合があります。

Test Score	Fluency Level
0 – 28	Beginner or mistest
29 – 36	1.0
37 – 44	1.2
45 – 55	1.5
56 – 59	1.7
60 – 67	2.0
68 – 72	2.2
73 – 84	2.5
85 – 100	2.7 or higher

＊スピーキングテストにアクセスするためには 6 問以上回答する必要があります。最初の 4 問で少なくとも 12 ポイント取らないと次に進むことはできません。ポイントは、それぞれの問題で最初の回答が認識されると 5 ポイント、2 回目の回答が認識されると 3 ポイントです。プラクティステストが完了しないと、教師がスピーキングテストをロック解除したとしてもテストにアクセスすることはできません。この機能により、テストの状態（声質、発音、マイクやコンピュータ、レベル等）が適切でない状況で生徒がテストを受けるのを回避できます。